



大地震が起こったら、ひなん場所へ行かなければいけないの

家の中のほうが、安全なときがある

家の中にいて地震が起こったときは、まわりのようすを見てから、行動することが大切です。鉄筋コンクリート造りや、木造の新しい建物は、いっぺんにこわれることは、まずありません。

東京などでは、「ひなん場所公園」、とかかれたかん板をよく見かけますが、大地震が起こったとき、すぐにその場所へひなんしなさい、という意味ではありません。

地震が起こったからといって、まわりのようすも見ないで、ひなん場所へすぐに行くことが、危険なときもあります。

ひなんするとちゅうで、屋根がわらや窓ガラス、かん板などが落ちてくることがあります。また石べいやブロックべいなどが、たおれてくることもあります。

広報車などの知らせを、聞いてからひなんする

ひなん場所へ、ひなんしなければならぬときは、地震のあとで起こった火事が、自分の家のほうなどへ、燃え広がってくるようなときです。

このようなときには、区役所や市役所の広報車などが、火事や被害のようすなどを、知らせてくれます。また、ラジオやテレビの報道で、町の様子がわかるので、それを参考にしてひなんします。（監修・国司 真）

